

3. 自然災害と自然の恩恵

自然災害は地形や地質を素因として、気象を誘因に発生するもので、日本列島は自然災害がおきやすい環境にあるために、毎年のように豪雨災害、地震災害、火山噴火といったものが起きている。日本列島の成立と位置関係が関係していることからわが国は自然災害の博物館のようでもあります。自然災害の怖いのは、いつ、どこで、何が起きるのかが直前まで、予測できないことです。つまり闇討ちのようなものではありませんが、これまでの事例研究や自然地理学の発展等により地域の危険度評価ができるところに近づいているような気がします。日本列島は災害列島ではありますが、それゆえにさまざまな景観や温泉と言った観光資源にも恵まれ、国土の7割が山地ということもあり優れた観光資源にもなっています。したがって、われわれは、災害リスクを理解して居住域を選択することが重要だし災害時の備えや行動をどうすべきかを事前に会得しておくことが必要となります。

日本列島は激しい地殻変動と日常的な火山や地震、台風などの外的作用を受ける状況にあるために、地形や地質が複雑かつ脆弱なものになっているのが特徴であります。それゆえに、常に自然災害をかわしながら居住域の安全安心の確保に腐心しています。このような風土は、多様な文化を生み、柔軟な姿勢を持ちつつ互助の精神が地域に根付いた講や祭りという形で今に伝えられていると思います。また、地質も脆弱であるゆえに、土壌の発達がありほとんどの山地が緑地というすばらしい景観が環境財を維持するとともに、風化や浸食を抑制し、地下水の涵養で豊かな水が確保されています。

日本列島はなぜ災害列島なのかというと、それは列島の地史と位置関係にあります。そして、その位置関係から来るところの気象があります。極端に言いますと、日本列島は若い地層で砂山のように侵食されやすい、崩れやすい地質であります。加えて、日本列島はいくつかのプレートの上であり、このプレートの動きとも関係しています。そして、地球変動の一端をなす火山があります。そのようなところですので、地震や津波、火山噴火は日本列島が有する体質のようなものです。加えて、脆弱な地質が砂山のごとで浸食、風化に対して弱く、降雨などの外的作用には抵抗力がなく虚弱です。このように日本列島は自然災害の博物館のようで、季節を問わずさまざまな自然災害がどこかで発生するという状況にあります。一方、このような躍動的というか動的な変化が激しいことゆえに、魅力的な景観と活動をもたらす温泉をはじめとする恵みは、国民の休養的財産であり、観光資源としても広く誇れるものになっています。われわれは、これまでもこのような抑止も抑制もできない自然に対して上手に、賢くつき合ってきたのです。これからも持続して、自然と共生するということを基本に、学習しながら、また自然力を活用することで、自然のシステムに抵抗したり破壊するような行為は、自滅を自ら呼び込むことになると思います。自然の恩恵は、あらゆることに関係しています。コンクリートだらけでは、建物は立ちますが、水や食料は得られませんし、日が当たれば暑すぎます、日が翳れば冷たいだけです。持続可能な自然のシステムが健全にランニングすることでのみ、恩恵が維持されると同時に防災にも大切な要素になります。